様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２５年５月８日現在

機関番号：１５４０１
研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：２０１０　～　２０１２
課題番号：２２５３０９７９
研究課題名（和文）
コミュニケーション能力育成のための演劇的方法を用いたカリキュラムの開発研究
研究課題名（英文）　Developmental study of curriculum in dramatic method for the development of communicative ability
研究代表者
難波　博孝（HIROTAKA NAMBA）
広島大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号：３０２４４５３６

研究成果の概要（和文）：
1 年目の 2010 年度は、国語科教育学や演劇学など諸学問を精査してコミュニケーション能力を定義付け、諸学問の精査と諸外国のコミュニケーション教育の知見を生かして、コミュニケーション能力育成の目標設定を行った。2 年目の 2011 年度は、国語科教育や演劇教育などで行われてきた演劇的方法によるコミュニケーション育成の方法を探求してきた。3 年目の 2012 年度は、ここまでの研究成果を生かし学会でのラウンドテーブルや論文などで成果を発表した。

研究成果の概要（英文）：
We scrutinized the result of various learning, investigated the result of the communication education of foreign countries, and performed goal setting of communications-skills training in 2010.
We have searched for the method of communication training by the dramatic method performed in Japanese education, theater education, etc. in 2011.
We announced the result for the result of research so far in a roundtable, a paper, etc. in the society in 2012.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２０１０年度	1,300,000	390,000	1,690,000
２０１１年度	1,100,000	330,000	1,430,000
２０１２年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総　計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：国語教育学
科研費の分科・細目：教育学・教科教育学
キーワード：教育学　国語教育　演劇　コミュニケーション

１．研究開始当初の背景
中教審答申で子どもの「コミュニケーション」の課題が提起されながら、国語科学習指導要領では「コミュニケーション」ではなく他の用語が使われていること（1）、「コミュニケーション」能力を育てる指導事項が明示されず（2）、そのため「話すこと聞くこと」（特に「話し合い」）の学習を「コミュニケーション学習」と同一視してきた従来の傾向が続いてしまう可能性があること（3）、「コミュニケーション」に必然的に伴う「身体的／非言語的な要素」の指導が、一部の指導事

項にのみ表れ（小学校中学年の指導事項にのみ表れる）系統的ではないこと（４）、などから考えて、平成２３年から実施される新学習指導要領のもとで行われる小学校国語科では、子どもたちのコミュニケーション能力を育成することが困難である可能性が高い。一方、コミュニケーション能力育成を目指した、言語と非言語（身体）を伴う教育方法（演劇的方法）は、ロールプレーイング／ソーシャルスキルトレーニング／アサーショントーレニング／ドラマシアターなど、多様なものが存在し、実際に小学校現場でも取り入れられている。しかし、これらの演劇的な教育方法には学校の教育計画の中でいわばスポット的に行われ連続性や系統性に乏しく（５）、国語科で行われているコミュニケーション能力育成と関連しておらず（６）、多くの場合外部の講師か一部の教員だけが行うので日常化した実践を行えない（７）ため、これらの方法による子どもたちのコミュニケーション能力の恒常的な育成も困難であると言わざるを得ない。

２．研究の目的

本研究「コミュニケーション能力育成のための演劇的方法を用いたカリキュラムの開発研究」は、児童のコミュニケーション能力育成のために、演劇的方法を用いた小学校国語科カリキュラム開発を行い、その一部を実際に試行し、評価することを目標とする。

そのために、コミュニケーション能力を、言語と非言語（身体）一体のものとして国語科の文脈で定義付けし、その育成の目標を国語科の中に設定し、国語科教育や演劇教育などで行われてきた演劇的方法によるコミュニケーション育成の方法を精査して整理し、その上で目標と方法を系統化したカリキュラムを開発して、その一部を試行して評価し修正して精度の高いカリキュラムを作成することを目指す。

３．研究の方法

平成２２年度は、国語科教育学や演劇学など諸学問を精査してコミュニケーション能力を定義付けること、諸学問の精査と諸外国のコミュニケーション教育の知見を生かして、コミュニケーション能力育成の目標設定を行うこと、国語科教育や演劇教育などで行われてきた演劇的方法によるコミュニケーション育成の方法を精査して整理すること、平成２３年度以後は、目標と方法を系統化したカリキュラムを開発し、その一部を試行して評価し修正して精度の高いカリキュラムを作成する。具体的には次のことを行う。

A. コミュニケーション能力を言語と非言語（身体）一体のものとして国語科の文脈で定義付ける

国語科教育学、言語学、心理学、社会学、コミュニケーション学、演劇学など、人文社会科学のコミュニケーション能力についての研究を精査し、言語と非言語（身体）一体のものとしてコミュニケーションをとらえた上で、国語科教育として生かすことができる知見を整理する。

B. コミュニケーション能力育成の目標を国語科の中に設定すること

A で得た知見を生かし、諸外国におけるコミュニケーション教育の知見も生かしつつ、新学習指導要領において示された国語科指導事項と関連づけながら、コミュニケーション能力育成の目標を設定する。

C. 国語科教育や演劇教育などで行われてきた演劇的方法によるコミュニケーション育成の方法を

精査して整理すること

コミュニケーション能力を言語と非言語（身体）とを一体のものとしてとらえたとき、その育成には演劇的な方法が欠かせない。そこで、コミュニケーション能力の育成に関わる古今東西の演劇的な方法を、国語科教育の授業実践や演劇教育の実践、さらに、心理学やコミュニケーション学の実践から、精査してその効果を評価し整理する。

D. コミュニケーション能力育成の目標と方法を系統化したカリキュラムを開発すること

B と C で得た、コミュニケーション能力育成の目標と方法を系統化し、国語科他領域と関連づけながら発達段階をふまえた上で、国語科教育のカリキュラムとして、開発する。

E. カリキュラムの一部を試行して評価し修正して精度の高いカリキュラムを作成すること

開発したカリキュラムを小学校現場の教員に示してフィードバックを得ながら修正し、また、カリキュラムの一部を研究代表者や分担者、協力教員によって実践し、その結果を得て修正を行う。

４．研究成果

本科研で合意した点は以下のことである。

Ａ　コミュニケーションとは何か

・シンボルを創造し、そのシンボルを介して意味を共有するプロセス

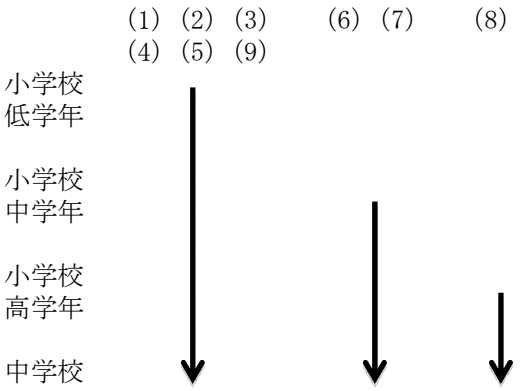
Ｂ　コミュニケーション能力とは何か

・シンボルを創造し、そのシンボルを介して意味を共有する力（能力）

Ｃ　コミュニケーション力（能力）の内実

（１）コミュニティーに参加する力

（２）コミュニティーや他者、自己と信頼（ラポール）を結ぶ力（意欲（勇気）／知識／スキル／コンピテンシー・・・以下同じ）
（３）＜よくわかっている～よくわからない＞他者や自己とかかわる力
（４）他者や場、コミュニティー、自己のようすが想像できる力
（５）（コミュニケーション）観の保持とそのメタ認知ができる力
（６）自分のコミュニケーション観を変えることができる可塑性
（７）自分のコミュニケーションスタイル(バーバル、ノンバーバル、プレゼンスなど)などのメタ認知と他者の認知の認知ができる力
（８）自分のコミュニケーションスタイルを変えることができる可塑性
Ｄ　演劇的方法の一番の力は、異化作用であること
（９）ブレヒト的な意味であり、今まで当たり前に見えていたこと思っていたことを、未知のものに変えていく効果（作用）
これらの合意に基づき、国語科教育において、カリキュラム試案の作成を試みた。



５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計９件）
1.原田大介　身体感覚をめぐることばの学び ： 自閉症スペクトラム障害の考察を中心に　国語教育思想研究　査読無　４　2012 pp.67-76
2.永田麻詠　小学校国語教科書に見る隠れたカリキュラムの考察 ： ジェンダーおよびクィアの観点から国語教育思想研究 査読無 ４　2012　pp.37-46
3.森美智代 国語科の「話し合い」活動を支える理論の検討 ： ハーバーマスのコミュニケーション論を中心として 国語科教育 査読有　72　2012　pp.17-24
4.渡辺貴裕 授業づくり・カリキュラムづくりの力を育てる「教育方法論」「教育課程論」の授業 日本教師教育学会年報 査読有　21 2012　pp.56-62
5 若木常佳 言語活動における国語科の役割 ： 話し合いの指導について 福岡教育大学国語科研究論集 査読無 53 2012 pp.69-80
6.渡辺貴裕　ドラマによる物語体験を通しての学習への国語教育学的考察　――イギリスのドラマ教育の理論と実践を手がかりに――　国語科教育　査読有　70　2011　p p.100-107
7.永田麻詠　国語科におけるコミュニケーション教育の成果と課題―「自分への自信」を取り戻すコミュニケーション教育に向けて 国語教育思想研究
査読無　3　2011　pp.39-48
8.難波博孝　「劇音読」のすすめ―劇化の前にしてほしいこと―　月刊国語教育研究
査読無464　2010　pp.34-47
9.原田大介　国語科に必要なコミュニケーション教育とは何か―「関係的な生きづらさ」の考察を中心に― 国語教育思想研究 査読無 2 2010 pp.51-60

〔学会発表〕（計３件）
1.難波博孝 コミュニケーション能力育成のための演劇的方法 全国大学国語教育学会 2012.5.27. 筑波大学
2.幾田伸司 劇化のための教材分析の観点―「スイミー」を例として―　鳴門教育大学国語教育学会 2011.8.24.鳴門教育大学
3.難波博孝　言語の教育の希望と絶望　日本教育学会　2010.8.21.　広島大学

〔図書〕（計１件）
1.寺田守　溪水社　読むという行為を推進する力　2012　394 頁

６．研究組織
(1)研究代表者
難波　博孝（HIROTAKA NAMBA）
広島大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号：３０２４４５３６

(2)研究分担者
幾田　伸司（SHINJI IKUTA）
鳴門教育大学・学校教育研究科・准教授
研究者番号：００３２００１０

森　美智代（MICHIYO MORI）
福山市立大学・教育学部・准教授
研究者番号：００３６９７７９

寺田　守（MAMORU TERADA）
京都教育大学・教育学部・准教授
研究者番号：００３８１０２０

原田　麻詠（永田麻詠）（MAYO HARADA）
梅光学院大学・子ども学部・講師
研究者番号：１０６１２２２８(H23→)

原田　大介（DAISUKE HARADA）
福岡女学院大学・人間関係学部・講師
研究者番号：２０５８４６９２

稲田　八穂（YAHO INADA）
筑紫女学園大学・人間科学部・准教授
研究者番号：２０６１２５１８(H23→)

宮本　浩治（KOUJI MIYAMOTO）
武庫川女子大学短期大学部・日本語文化学科・講師
研究者番号：３０５８３２０７

牧戸　章（AKIRA MAKIDO）
滋賀大学・教育学部・准教授
研究者番号：４０１９０３３４

渡辺　貴裕（TAKAHIRO WATANABE）
帝塚山大学・現代生活学部・准教授
研究者番号：５０４１０４４４

小田中　章浩（AKIHIRO ODANAKA）
大阪市立大学・文学研究科・教授
研究者番号：７０２２４２５１

若木　常佳（TUNEKA WAKAKI）
福岡教育大学・教育学研究科（研究院）・教授
研究者番号：９０４５４５７９